



メトロを使って  
マドリードの建築を巡る (十二) プエルタ・デル・ソル周辺

Arquitectura de Madrid metro a metro (12)

1. プエルタ・デル・ソル (Puerta del Sol)

所在地 : Puerta del Sol

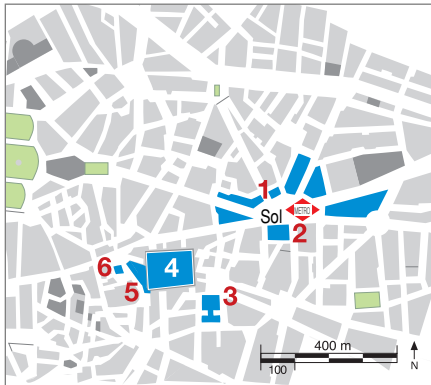
建築家 : Lucio del Valle, Juan Rivera, José Morer (技術者),

Antonio Ruiz de Salces 1857-1859 年設計, 1859-1862 年建設

1回目改修 Manuel Herrero Palacios 1950 年設計・工事

2回目改修: Antonio Riviere Gómez, Javier Ortega Vidal, Antonio

González-Capitel Martínez 1985 年設計, 1985-1986 年工事



スペイン主要幹線道の起点、プエルタ・デル・ソル。「太陽の門」を意味するプエルタ・デル・ソルは、何世紀も前からマドリードの変遷を見守って来た広場だ。15世紀頃は王宮付近に広がっていた町の外れで、町を取り巻く市壁の門があった。東側に位置するこの門に、太陽の絵が描かれていたことが名前の由来だ。市壁は17世紀には取り壊されたが、名前だけはその後も受け継がれて来た。元来マドリードへの入り口の役割を果たしていたが、町の急速な広がりと共に、いつのまにか町の中心地へと変化していった。17世紀から19世紀にかけては、現在プエルタ・デル・ソル周辺のマジョール通り、アレナル通り、アルカラ通り、カレラ・デ・サン・ヘロニモ通り沿いの細長い区画ができあがった。1768年に広場の中心となる王立郵便局建設で、現在ある広場の基盤が作られたと言える。

プエルタ・デル・ソルは様々な歴史の舞台にもなった。1808年5月2日には、フランシスコ・デ・ゴヤの絵でも有名な、ナポレオン軍の占領に対する暴動が起きた。1812年憲法が読み上げられ、フェルナンド7世の王位が公布されたのもこの場所である。

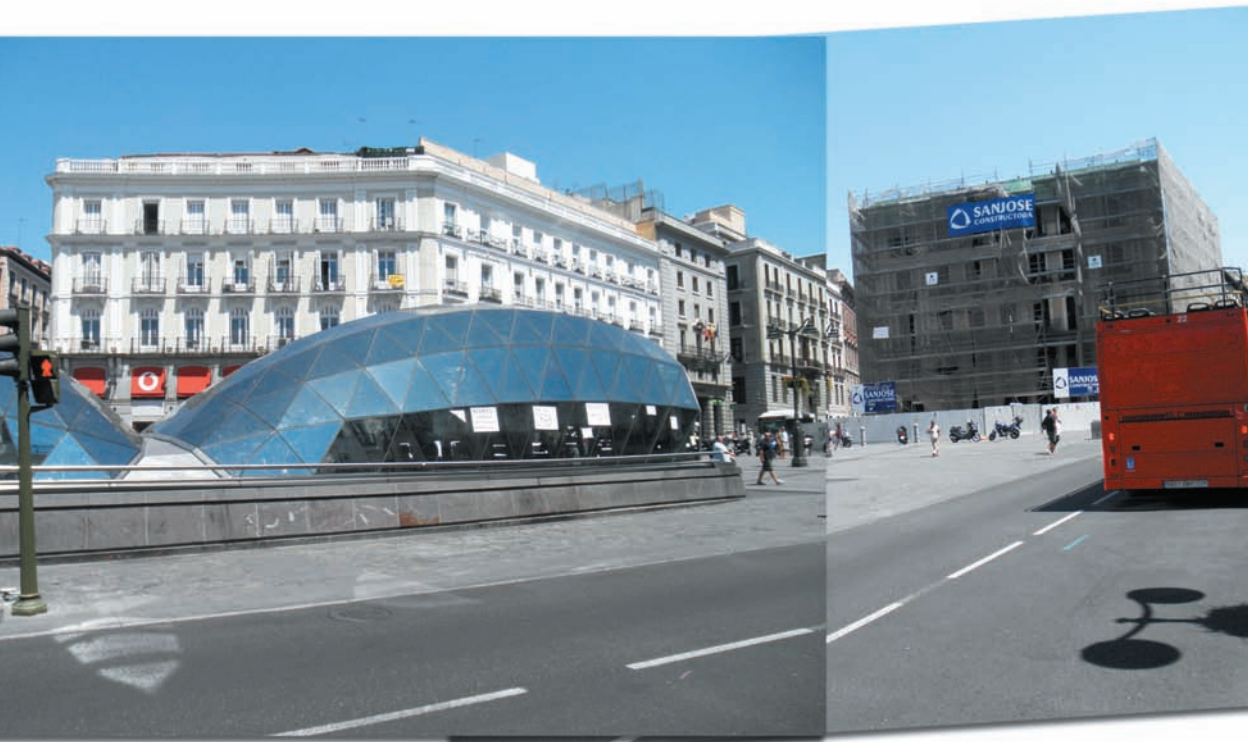


Foto: JLMMASSA

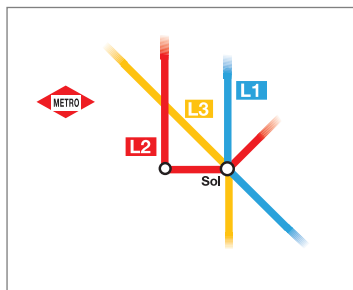
Fotografías cedidas por el Programa de la Fundación  
Arquitectura COAM del Colegio Oficial de Arquitectos  
de Madrid, excepto las firmadas JLMMASSA

1847年、郵便局の建物に内務省を移転させるにあたり、周辺の整備計画が持ち上がった。メンディサバルの永代所有財産解放令の延長に伴い、郵便局に隣接していたサン・フェリペ修道院とビクトリア聖母修道院が解体された。1857年にはコンペで決められたLucio del Valle、Juan Rivera、José Morerの設計で広場の改造が始まった。この改造では、郵便局の直線は尊重しながらも、もう一方の北側は全体的に半円形になった。北側の建物は全て様式を揃えたが、郵便局のある南側は広場改造以前に建てられているため、様式は統一されていない。その後も、プエルタ・デル・ソルはいくつかの改造を重ねた。1950年Manuel Herrero Palaciosの改造では、中心に緑地と二つのネオバロック様式の噴水が設けられ、1986年には車が通るカサ・デ・コレオス側と、歩行者用のプレシアードス通り方面に分けられた。この1986年の改造では広場に面する建物も全体的に改修され、様式が統一された。

広場にはいくつかの像が立っているが、中でも、観光客に特に人気なのは熊とマドロニョの像だ。市民の待ち合わせ場所でもあるこの像の周りには、いつも人でいっぱいだ。マドリード市のシンボルであるこの像は、

市の依頼で1967年に据え付けられた。1990年代には、王立郵便局の建設にも関わったカルロス3世像が設置され、それと同時に、17世紀に持ち込まれたと言われるLa Mariblanca像のレプリカも戻って来た。そのオリジナルは1985年に修復されて、現在はマドリード歴史博物館に保管されている。

最後の改修は2004年から2009年まで、広場に近郊線の駅を置く大々的な改造が行われた。現在では車は一車線を残すのみで、歩行者優先の広場に生まれ変わった。ガラスで覆われた駅の入り口が、広場のシンボルの一つになっている。



### 3. サンタ・クルス宮 (現外務省)

(Palacio de Santa Cruz (Actual Ministerio de Asuntos Exteriores))

住所 : Plaza de la Provincia, 1

建築家 : Juan Gómez de Mora, 1629-1630年設計; Juan de Villanueva  
1791-1793年建設

再建 : Juan de Villanueva 1791年設計; 1792-1793年建設

1回目改築 : 建築家不明 1930-1932年工事

拡張・改築 : Pedro Muguruza Otaño 1941年設計; 1945-1950年工事,  
José María Muguruza Otaño 1945-1950年工事

16世紀半ば、マドリードに初めて牢屋ができた。しかしやがてそれも手狭になり、建築は老朽化した。そこで1629年、当時にしてみれば衛生施設も整え、採光やパティオなどのスペースも取り入れた近代的な牢屋が同じ場所に再建された。牢屋だけでなく、そこは市の行政や裁判なども行われるよう、いわゆるお役所建物となっていた。隣り合わせの教会はサンタ・クルス教会という。死刑囚の心の支えを受け持ったというわけだ。1791年原因不明の大火事で建物はファサードを残し全壊してしまう。これを当時の宮廷一の建築家、フアン・デ・ビジャヌエバが自ら指揮をとって再建する。その後、牢屋は近くの建物に引越し、以来この建物は宮廷付属の裁判所となり、時の流れにつれて、用途は海外総領事府、国務相、そして現在の外務省と変遷した。建築様式はイタリア・クラシック。二つのパティオが美しい。これが元牢屋？と思わせる優美な内部である。黄金時代を偲ぶように今もコロンブスとエル・カノの銅像が行んでいる。



ELIMASSA

## 2. 王立郵便局(現マドリード自治州本部 (Real Casa de Correos (Actual Presidencia de la Comunidad de Madrid) )

所在地 : C/ Correo, 1

建築家 : Jaime Marquet 1760年設計, 1760-1768年建設

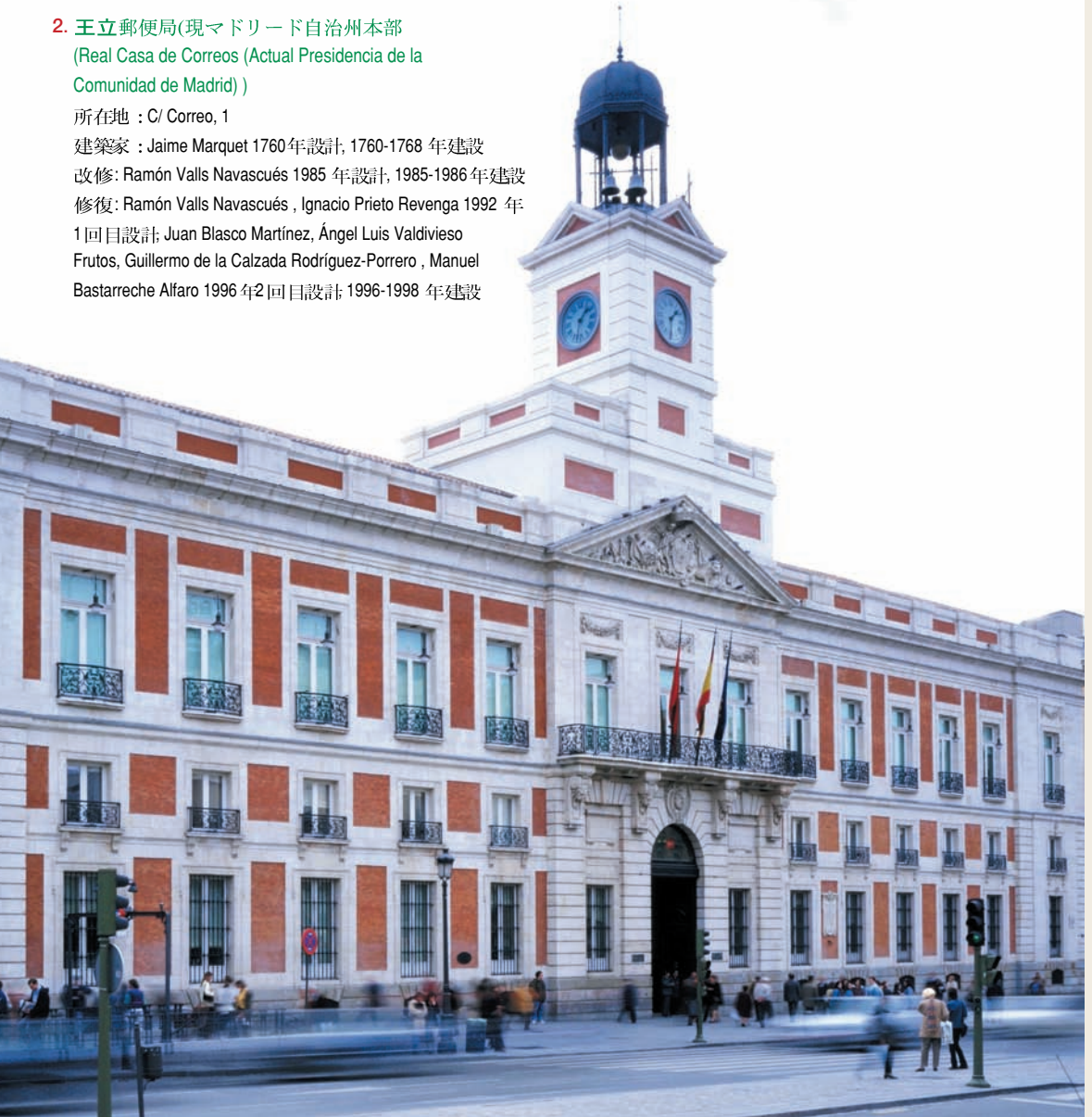
改修: Ramón Valls Navascués 1985年設計, 1985-1986年建設

修復: Ramón Valls Navascués, Ignacio Prieto Revenga 1992年

1回目設計; Juan Blasco Martínez, Ángel Luis Valdivieso

Frutos, Guillermo de la Calzada Rodríguez-Porrero, Manuel

Bastarreche Alfaro 1996年2回目設計 1996-1998年建設



プエルタ・デル・ソルで現存する最も古い建物であり、マドリードの歴史的上欠かせない建物の一つでもある。フェルナンド6世の時代、王宮の建設にも関わったVentura Rodríguezに王立郵便局の建設が依頼されたが、実現には至らず、カルロス3世に王位交代後、フランス人建築家Jaime Marquetがその設計を請け負うことになった。長方形の建物内部には、外側に回廊、内側に二つの中庭が配された。正面は、レンガと白色の石で二色のデザイン、フランス古典様式に則っている。

時代の変遷と共にプエルタ・デル・ソルが町の中心となり、占領軍に対する暴動などが度重なると、郵便局の一部には周辺の警備のために軍事司令部が置かれ

ることになった。その後、一階部分は相変わらず郵便局として機能していたが、上部は内務省へと生まれ変わり、市民戦争後には司令部が置かれた。

王立郵便局の改修の中でも、スペイン一般市民にとって最も重要なのは、19世紀の中央正面入り口の上に鐘楼のついた時計台設置だろう。性能が悪いために批判的だった古い時計が外されて、時計職人Losadaが無償で市に提供した時計が取り付けられた。この時計は、今となってはスペインのクリスマス行事になくはならない存在で、毎年大晦日、時計が夜12時を指すと、時計台の鐘が12回鳴らされ、国中の人々がそれに合わせてブドウを12粒食べるのが習わしとなっている。

#### 4. マジョール広場 (Plaza Mayor)

所在地 : Plaza Mayor, 1 - 35

建築家 : Juan Gómez de Mora 1617年設計, 1617-1619年建設,

再建・改修 : Juan de Villanueva 1790年設計, Juan de Villanueva, Antonio López

Aguado, Custodio Teodoro Moreno, Juan José Sánchez Pescador 1791-1854年建設

改造 : 建築家不明1848年, 地下駐車場建設・広場改造 : Manuel Herrero

Palacios: 1967年設計, 1967-1969年工事, 改築 : José Luis Martín Gómez,

Francisco Pol Méndez: 1988年工事



古くアラバル広場と呼ばれたマジョール広場は、中世城壁の外にあり、商売の盛んな地域だった。人の集まりと共に自然発生的に広場が形成されたため、初期はいびつな形だったようだ。16世紀、マドリッドに宮廷が移されると、町のシンボルであるマジョール広場の建設が求められ、時の国王フェリペ2世は、お抱えの建築家Juan de Herreraに全体の設計を依頼した。最初の建物となるのはカサ・デ・ラ・パナデリアで、1590年に工事が始まった。1608年には、フェリペ3世により、Juan Gómez de Moraが命を受けて建設することになった。Gómez de Moraは、すでに建てられていたカサ・デ・ラ・パナデリアに一階部分だけ変更を加えた後、これを広場を囲む建物の中心にして、向かい側にはカサ・デ・ラ・カルニセリアを建てた。120 x 94 mの長短の割合は、催しの観覧に適当な大きさとされ、ローマ建築のアトリウムとも似通っている。建物は木造6階建てで、丸天井がついた地下がついていた。

マドリッドのマジョール広場は、ヨーロッパの他の都市で、同時代に建設された貴族主義的で宗教的な傾向が強い広場と比べて、住人の社会階級を反映した庶民的な広場になった。ここでは、闘牛などの祭りの他、アウ

ト・デ・フェ(カトリックの異端判決宣告)も行われ、バルコニーはその見物に使われた。催しがある時には、住人は宮廷の召使いに譲らなければいけなかった。

ここは、その後1631年、1692年、1790年と3度も火事に遭い、部分的、全体的な再建を余儀なくされた。屋根は当初鉛製だったが、1631年の火事後、円錐形のアラブ瓦に変えられた。当時の広場の入り口は、アーチのある入り口が3つ、建物と建物間の小さな通りから入る入り口が6つで、開放された広場だった。広場の周りの通りも広場の整備と共に整えられ、周辺の通りとの段差を埋める作業が大掛かりに進められた。広場の西側にある通りカバ・デ・サン・ミゲル側の独特な建物から、今でもその落差を実感することができる。段差を埋めるためにできたのがエスカレリージャ・デ・ピエドラとクチジェロス門だ。1790年に発生した3回目の火事で、その改修を請け負ったJuan de Villanuevaはヨーロッパ各国を見做って、これまでの開放された広場から、一変して入り口にアーチを取り付けて閉鎖された空間にした。また、他の建物の高さを低くして、カサ・デ・ラ・パナデリアに揃えた。広場周辺の3分の1が焼けたこの大火事では、建築材料を焼けやすい木材から



#### 4. カサ・デ・ラ・パナデリア (Casa de la Panadería)

所在地 : Plaza Mayor, 27

建築家 : Diego Sillero 1931年建設終了,

改築・改修 : Tomás Román 1672-1674年工事, 1回目修復 Joaquín M<sup>o</sup> Vega 1880-1881年工事, 補強 Salvador Pérez Arroyo 1983年設計; 1985年工事, 修復 Pedro Gáligo Estévez 1990年設計; Joaquín Roldán Pascual 1991-1994年工事, 王室の間修復 Joaquín Roldán Pascual 1997年設計; 1997-1998年工事

16世紀後半、行政官の提案を受けて、フェリペ2世がパン屋を総括する組合の建設を命じた。マドリードの急激な住民の増加に対して、パンの円滑な供給を促すためだった。1590年に始まった建設は1617~1619年に終わると同時に、Gómez de Moraによりカサ・デ・ラ・パナデリアを北側にした四角形の広場の建設も行われた。1672年8月20日には火事に遭い、焼け残った地下と一階を利用して再建された。1790年起きた広場の火事ではカサ・デ・ラ・パナデリアは消失を免れ、次の修復は1880年まで90年先のことになる。Joaquín M<sup>o</sup> Vegaによるこの修復では、正面中央にバルコニーつきの紋章の彫刻が取り付けられた。その後月日の経過と共に損傷が進んだほか、1960年代の地下駐車場建設により損傷を受け、Salvador Pérez Arroyoの指示に従って基礎構造の修復が行われた。

全体的に様相が統一されたマジョール広場において、カサ・デ・ラ・パナデリアは壁面のフレスコ画からして、他と一線を画す。1階部分も、カサ・デ・ラ・パナデリアを模倣したカサ・デ・ラ・カルニセリアを除いて、多くの建物のアーケードは上部が平面であるのに対して、カサ・デ・ラ・パナデリアのアーケードは上部が丸いアーチ状になっている。特筆に値するのは2階の王室の間で、Claudio CoelloとJosé Ximénez Donosoの天井画が見事だ。その後建物は現在ではマドリード市のツーリスト・インフォメーション・センターとして活用されている。

他の材料に変える必要に迫られた。再建はすぐ始まったが、その後Villanuevaの指示を忠実に受け継いだJuan José Sánchez Pescadorが全体を均一化するデザインを加えて、1854年まで工事が続いた。その数年前、1848年には見せ物広場としての機能を終え、すでにフェリペ3世の像が立っていた広場はフランス風の庭園に生まれ変わった。しかし、1967~1969年の地下駐車場建設計画により、フランス庭園も姿を消して今の形に至った。現在、カサ・デ・ラ・パナデリアは市のツーリスト・インフォメーション・センターとなった。その周りには観光客向けのお土産屋やレストランの他、古くから脈々と続く古切手・コインの店や帽子屋などが独特の雰囲気を作り出している。また、週末の古切手・コイン市、年末恒例のクリスマス市の他、様々な催しが年間を通して広場を活気づけている。





JLMMSSA

5. カバ・デ・サン・ミゲル通りの建物  
(Conjunto de edificios de viviendas de la Cava de San Miguel)

所在地 : C/ Cava de San Miguel, 1 - 19  
 建築家 : Juan Gómez de Mora 1617年設計, 1617-1619年建設  
 改築・改修: Juan de Villanueva 1790年設計

**独** 特な雰囲気と、そこに立ち並ぶ料理屋で観光客の人気を集めるカバ・デ・サン・ミゲル通りの建物は、元々マジョール広場と通りの段差を埋めるために建てられたものだ。この段差は建物階分にあたり、合わせて8階建ての建物は、何世紀もの間マドリッドで一番高い建物だった。マジョール広場の地下同様、カバ・デ・サン・ミゲル通り一階部分に見られるドーム状の天井は、気軽に見学する事ができる。

マジョール広場の南西の入り口、カバ・デ・サン・ミゲル通りとクチジェロス通りをつなぐ部分には、1790年の火事後の修復で、クチジェロス門と呼ばれるアーチのついた入り口が作られた。ここにある急な階段を見るにつけても、広場と周りの通りとの落差に驚かされる。クチジェロス門から下のクチジェロス(刃物通り)には、刃物組合の工房が軒を連ねていたために、この名がついた。この通りの刃物職人は、広場内にあった肉屋へ道具を調達していたようだ。



JLMMSSA

6. サン・ミゲル市場 (Mercado de San Miguel)

住所 : Plaza de San Miguel  
 建築家 : Alfonso Dubé Díez 1912年設計, 1913-1916年建設

**マ** ジョール広場のすぐ隣、20世紀初頭に建てられた市場。鉄柱の柱が支える2階建ての建築は屋根の構造、棟飾り、下水システムなどに特徴がある。鉄建築と呼ばれるこの手の建築物で現在残る唯一のものである。1999年にマドリッド州政府が一億円余りをかけて修復し、本来の姿を復元した。回りを囲むガラスはその時のもの。面積1200m<sup>2</sup>。

21世紀に入り、ほぼ6年に及ぶ工事の末、2009年には新しい形の市場として再オープン。マジョール広場のすぐ隣という立地条件を利用して、観光客にも魅力的な、デリカテッセンの要素を加えた市場が誕生した。スペインの豊富なグルメはもちろんのこと、寿司なども並び、各専門店で購入したものを少しずつ買ってつめる手軽さが人気を呼んでいる。20世紀前半の鉄建築の基本構造はそのままに、新しく生まれ変わった市場は、これからも進化を続けていくだろう。

